

TOPIC 1 | 住宅にも真空断熱材の時代、断熱性向上の流れにインパクト

住宅にも真空断熱材が使いやすくなりそうだ。グラスウール断熱材メーカーの旭ファイバーグラスが建築用の真空断熱材のJIS規格の認証を国内で初めて取得した。

真空断熱材とは、断熱材を減圧し内部を真空にしたものを指す。従来の断熱材に比べ空気熱伝導がないため断熱性能が高いのが大きな特徴で、その分、薄くすることもできる。これまで冷蔵庫や自動販売機、クーラーボックスなどの産業用途において広く使われてきた。しかし、建築用途では何十年もつような耐久性が求められることから、これまでほとんど使われてこなかった。

こうしたなかで統一の基準として、2020年に日本産業規格で建築用真空断熱材(JIS A 9529)が制定。このほど

旭ファイバーグラスが国内で初めてこのJIS認証を取得したものだ。初期の断熱性能はJIS規格では「23℃、相対湿度50%、25年継続使用」を想定されているが、同社の真空断熱材では、これが長期にわたりほとんど低下しないことが確認された。

その熱伝導率は、初期性能、長期性能いずれも0.004W/mKと、住宅用グラスウール断熱材で国内最高クラスの性能を持つ同社のアクリアα36Kの0.032W/mKの10分の1程度。熱抵抗値(R値)は5程度とみられる。

今後、旭ファイバーグラスでは、ネーミング、サイズ、価格などの詳細を詰め、年内の真空断熱材商品の販売を目指している。

TOPIC 2 | 一次取得者獲得へ、住宅メーカーの規格型住宅開発が加速

注文住宅で培った家づくりのノウハウを生かして規格型住宅を充実させるハウスメーカーの動きが目立ち始めている。20代～40代の一次取得者層の獲得を目指し提案が活発化している。

トヨタホームは、規格型住宅の「LQ」を12年ぶりにモデルチェンジし、「SINCÉ LQ」として発売した。ZEHにするとともにオリジナル全館空調「スマート・エアーズ」を標準装備し、2200万円～2800万円台(税込)の求めやすい価格で提供する。39プランの間取りを用意し、従来のLQに比べて、コンパクトな間取りもそろえ、狭小地への敷地対応力も高めた。また、シンプル＆モダンな外観と飾らないシックなインテリアをそれぞれ3コーディネート用意した。

大和ハウス工業は、Web限定の規格型住宅商品「Lifegenic(ライフジェニック)」を展開している。平均販売価格は2000万円～2500万円(税込)。20代～40代、土地なしの一次住宅取得者層から支持を受けて2019年の発売以来、販売累計実績は1300棟を突破した。



トヨタホームの「SINCÉ LQ」。バルコニーのガラス面を特徴としたシンプルな外観デザインを採用した

旭化成ホームズは、同社初の規格型住宅としてセミオーダースタイルの「my DESSIN(マイデッサン)」を販売している。場所や時間を問わず好きなタイミングで打ち合わせ出来る「スマートミーティング」という手法の採用、子育て世代が暮らしやすいという観点でプロが選び抜いたプラン・仕様を盛り込んだ「プロライン・プロセレクト」を用意したことも奏功し、2019年の発売開始から2022年3月までの累計で500棟を突破した。

今知りたい情報がここにある

住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune premium

ハウジングトリビューン オンライン プレミアム

https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/